

C-91 3色調和における色空間構成の試み
椋山女学園大家政 O加藤雪枝 椋山藤子

目的 配色の効果は造形の対象や機能によって異なるが、常に配色の美、すなわち構成色相互の調和感が大切である。そこで調和感をうる一つの目安となる色空間ができれば、便利である。円形配置の3色等面積配色および形態を伴うたんざく、うろこ模様により、Eijk型数量化法にもとずいて各色の配色色空間構成を求め、調和感のある配色を検討した。

方法 基本色はP.C.C.S.表色系を用いてブライト、ストロング、ディープの中から9色を選定する。これに無彩色を加え11色とした。11色に対し3色の組み合わせ165組の3色配色を作成する。サンプルの配置は円形であり、各色は120度の領域を占める。配色感情の評定はSD法により被験者45名で行なった。イメージ用語は調和している—調和していない、好きな—嫌いな、快適な—不快な、平凡な—平凡でないの4尺度であり、7段階法によって行なった。この7段階の中央（どちらでもない）を中心に調和している、好きな、快適な、平凡な側に属するデータを用い、非調和性のものが空間布置において遠距離にあらわすEijk型数量化を用いて、各尺度毎の色空間を構成した。たんざく、うろこ模様においても9色を用いて、円形配色と同様に行なった。

結果 円形配置の配色については用語間にかんがりの相関が認められるが平凡、平凡でないがやや劣る。一般に色空間ではあかるい紫、こい赤が離れた位置にあり、他の色は比較的接近している。そこで調和のよい配色は色相が類似している配色であり、概して寒色系の組み合わせであることが明らかとなった。たんざく、うろこ模様両者間の色空間布置に若干の相違がみられ、形態を考慮すれば調和感がえられるものと判断された。